

公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 平成26年度事業報告

1. 事業の概要

本年度の事業活動の特色は、次の3点になります。

- (1) 「CSOラーニング制度」(※注)においては、36のCSO団体へ60名の大学生・大学院生の派遣を行いました。
- (2) 「市民のための環境公開講座」においては通年講座9回を開催、従来の新宿会場に加え、日本橋会場での日中開催が2年目を迎えました。特別講座として野外講座を1回、若者向けワークショップを1回開催しました。
- (3) 「環境問題研究会」においては、「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」の研究成果を各方面に発信しました。

※注：CSO=Civil Society Organization 市民社会組織の略。NPO・NGOを包含する概念。

事業のあらましは次のとおりです。

(1) 環境保全活動に活躍する人材の育成支援(事業予算計2,820万円、実績2,493万円)

①「損保ジャパンCSOラーニング制度」の実施(予算2,000万円)

大学生・大学院生に対する環境CSOでの活動による人材育成、及びCSOに対する支援を目的とした本プログラムは今年で15年目となりました。2014年6月～2015年1月末まで8ヶ月間のインターン活動をする学生を公募し、全国4地区合計36のCSO団体で60名が参加しました。本年度より、新たに愛知地区で「アジア保健研究所」を派遣先団体に加えました。健康と自立のための人材育成をアジアで実施している団体で、インターン生は各国からの国際研修生との交流など貴重な経験を積むことができました。

地区	応募者数		合格者数	
関東	55名	(昨年55名)	28名	(昨年29名)
関西	24名	(昨年18名)	16名	(昨年11名)
愛知	14名	(昨年21名)	8名	(昨年10名)
宮城	11名	(昨年7名)	8名	(昨年7名)
合計	104名	(昨年101名)	60名	(昨年57名)

本年度の運営においても、ひとりひとりがCSOの理念を理解した上で、しっかりと活動を学び、それを地区ごとに共有してお互いの経験を深めていく、という本制度の基本を重視しました。修了式ではそれぞれの学びから得た成果を活かし、地区ごとにテーマを設定して発表します。

8月には関東・関西・愛知・宮城地区全てのインターン生・チューターが一堂に会する全国合宿を実施しました。ここではラーニング生同士が議論してインターンシップでの課題を明確にしました。外部講師として、NPO法人環境エネルギー政策研究所 主任研究員の山下紀明氏をお招きし、再生可能エネルギーの最前線について学ぶとともにインターン生への期待を込めたメッセージをいただきました。その他、環境問題に関するディスカッション、今後の目標設定などを行い、インターンシップ活動をより充実としたものとするきっかけとし、

また各々の将来について夢を持って語りあう機会となりました。

9月下旬には「アサザ基金の活動を学ぶ合宿」を行い、活動の「理念」の重要性を学生が学ぶ機会となりました。アサザ基金代表の飯島博氏からアサザ基金の理念や活動方針を聞き、霞ヶ浦を中心とした循環型社会づくりの現場を体験しました。

2月には、ラーニング生それぞれがインターンに8ヶ月間参加したことで得られた自分の経験・学びを整理し振り返るための「修了レポート」を作成しました。

一方、関東地区では、NPO法人アサザ基金と地元の中学校との協働により耕作放棄地を再生した田んぼの取り組みを行い、4度目の収穫に至りました。中学生のアイデアも取り入れながら工夫をし、地域に根付いた循環型社会づくりを体験する機会となりました。

CSO名	人数
(関東地区)	奨学金
1 アサザ基金	2
2 エコジャパンコミュニティ	1
3 ECOPLUS	1
4 オイスカ	2
5 オーシャンファミリー	2
6 環境エネルギー政策研究所	2
7 環境文明21	1
8 共存の森ネットワーク	1
9 国際自然大学校	1
10 コンサベーション・インターナショナル	2
11 ジャパン・フォー・サステナビリティ	1
12 JUON NETWORK	1
13 樹木・環境ネットワーク協会	1
14 新宿環境活動ネット	2
15 WWFジャパン	2
16 日本エコツーリズムセンター	1
17 日本環境教育フォーラム	2
18 日本自然保護協会	2
19 パブリックリソース財団	1
関東地区計	28

CSO名	人数
(関西地区)	奨学金
1 愛のまちエコ倶楽部	2
2 安曇川流域・森と家づくりの会	1
3 大阪自然環境保全協会	2
4 環境市民	2
5 気候ネットワーク	2
6 こども環境活動支援協会	2
7 地球環境市民会議	1
8 日本ウミガメ協議会	2
9 びわこ豊穡の郷	2
関西地区計	16
(愛知地区)	奨学金
1 アジア保健研修所	1
2 オイスカ中部研修センター	3
3 地域の未来・志援センター	2
4 パートナーシップサポートセンター	1
5 藤前干潟を守る会	1
愛知地区計	8
(宮城地区)	奨学金
1 仙台いぐね研究会	2
2 環境会議所東北	3
3 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	3
宮城地区計	8
総合計	60

CSOラーニング制度の卒業生は今年度末で合計843名となります。今後も特徴ある環境教育・人材育成の仕組みとしての質を高め、一層の制度の充実・推進を図ってまいります。

②CSOによる人材育成事業等への助成（予算100万円）

CSOが自ら行う事業に対して、6件（98万円）の助成を行いました。

(単位:万円)

	団体名	プロジェクト名	実績
1	NPO法人環境会議所東北	「いのちを支える自然の力をさかなクンと学ぼう」	10
2	藤前干潟ふれあい事業実行委員会	藤前干潟ふれあい事業 ESD・KODOMOラムサール 湿地交流 in 藤前干潟	5
3	東京ボランティア・市民活動センター	市民社会をつくるボランタリーフォーラムTOKYO2015 「今を想い、未来を創る」	3
4	公益社団法人日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2014	20
5	全国大学生環境活動コンテスト実行委員会	第12回全国大学生環境活動コンテスト(ecocoon2014)	30
6	NPO法人アサザ基金	かつぱ大交流会～三重県大紀町『七保未来塾』との環境学習交流	30
		合計	98

(2) 環境保全に関する情報の収集及び提供並びに啓発普及（事業予算計1,630万円、実績1,332万円）

①「市民のための環境公開講座」の開催（予算1,048万円）

公益社団法人日本環境教育フォーラム・損害保険ジャパン日本興亜株式会社と当財団が三者共催にて開講している本講座は、今年度で22年目を迎えました。今年度の講座も昨年度に引き続き通年講座を柱としながら、新たな受講者層を拡大するために2つの特別講座を企画・実施しました。

通年講座のテーマは「パート1 どうなる？気候変動のこれから」、「パート2 暮らしを見つめる～野菜・和食・古民家～」、「パート3 持続可能な社会は実現するか」とし、各パート3回、合計9回を開催しました。

全体を通じ、例年に増して受講者の満足度が高く、アンケートからも満点に近い高評価が半数以上を占めました。

パート2では昨年度に続き日本橋ビルにて日中（14：30～）開催とすることで、主婦層の受講率が他のパートより約10%高まりました。新たな受講者層の拡大につながるのと同時に、取り上げたテーマを支持する受講者のコメントも多くいただきました。

特別講座では、大学生・若手社会人向け「社会を変えるシゴト・ワークショップ」、および野外講座「食べる自然体験」を開催しました。

「社会を変えるシゴト・ワークショップ」では社会の課題に向き合う仕事を実際に行っている若手の講師3名から経験と想いをお話いただき、それを受けて参加者自身がお互いの考えや将来について熱く語り認め合う、未来につながる生きた学びの場となりました。

「食べる自然体験」では東京湾の無人島「猿島」を会場として、磯の生き物を実際に手で採りそれを料理し食べる体験を通じて、自然の恵みのありがたさ、昨今の気候変動が与える生活への影響について考える、野外活動ならではの機会となりました。

特別講座はいずれも定員を超える申込みとなり、受講満足度も共に高い結果となりました。実体験を通じた環境教育の機会を提供することでより学びを深めるとともに、新たなファン層を増やしていく、という主旨からも手ごたえを感じました。

通年講座・特別講座を含めた年間の延べ参加者総数は1,060名となり、3年ぶりに千名の大台を超えることとなりました。

<受講者の状況>

2014年度	パート1	パート2	パート3	ワークショップ	食べる
申込者数	167名	161名	312名	52名	20名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	357名	251名	399名	37名	16名

※年間延べ参加者 1,060名

2013年度	パート1	パート2	パート3	ワークショップ	船
申込者数	142名	188名	189名	0名	13名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	321名	286名	236名	45名	12名

※年間延べ参加者 900名
(特別講座1回は台風により開催中)

2012年度	パート1	パート2	パート3	ワークショップ	船
申込者数	163名	206名	154名	45名	16名
延べ参加者数 (各パート3回実施)	301名	349名	215名	39名	15名

※年間延べ参加者 919名

<通年講座の内容>

パート1. どうなる?気候変動のこれから

* 敬称略

	テーマ	講師
1 2014年7月1日	生物多様性・生態系からみた気候変動の影響と適応策	鷲谷 いづみ 東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
2 2014年7月8日	気候変動対応策 我々は何をすべきか・都市と個人の立場から考え	市橋 新 東京都環境科学研究所調査研究所 都市自然環境・資源循環研究領域長
3 2014年7月15日	地球温暖化リスクと人類の選択 IPCCの最新報告から	江守 正多 国立環境研究所 気候変動リスク評価研究室長

パート2. 暮らしを見つめる～野菜・和食・古民家～

	テーマ	講師
1 2014年9月30日	野菜の魅力と人に与える素晴らしさ	藤田 智 恵泉女学園大学 人間社会学部 教授
2 2014年10月7日	良心と信頼によって支えられる 食品生産者と消費者との関係	土居 純一 こんぶ土居 代表者
3 2014年10月21日	美しき日本を求めて	アレックス・カー 東洋文化研究者

パート3. 「持続可能な社会」は実現するか

	テーマ	講師
1 2014年11月4日	「里山資本主義」で持続可能な社会を	藻谷 浩介 地域エコノミスト (株)日本総合研究所 調査部主任研究員
2 2014年11月18日	「自然と向き合う心」を育む経験 自然学校の体験から登山家へ	竹内 洋岳 プロ登山家 立正大学客員教授 ICI石井スポーツ所屬
3 2014年11月25日	持続可能な社会を目指す人づくり	阿部 治 持続可能な開発のための教育の10年推進会議 (ESD-J) 代表理事 立教大学社会学部 教授

< 特別講座の内容 >

実施日・場所	テーマ	講師
2014年10月11日 損保ジャパン日本興亜 本社ビル	<ワークショップ> 「社会を変えるシゴト・ワークショップ」	ファシリテーター 青木 将幸 青木将幸ファシリテーター事務所 代表 スピーカー 小沼 大地 NPO法人クロスフィールズ 共同創業者 代表理事 善木 真理子 認定特定非営利活動法人NPOカタリバ 広報・ファンドレイジング部 サブディレクター 山川 勇一郎 多摩電力合同会社 多摩センター 副代表 一般社団法人多摩循環型エネルギー協会 理事

実施日・場所	テーマ	講師
2014年10月25日 神奈川県横須賀市 猿島	<野外講座> 「食べる自然体験」	講師 蓮池 陽子 有限会社ビーネイチャー フードプランナー 北澤 伸之 ネイチャーガイド

②各種シンポジウム・研究会への協賛（予算100万円）

環境問題の普及・啓発活動に対し、5件（75万円）を助成しました。

(単位:万円)

	団体名	プロジェクト名	実績
1	棚田学会	2014年(平成26年)棚田学会大会シンポジウム	10
2	「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム	ESDの10年・地球市民会議	20
3	NPO法人環境文明21	2014年度経営者「環境力」大賞事業	10
4	地球温暖化防止全国ネット	低炭素杯2015	30
5	NPO法人新宿環境活動ネット	第14回新宿の環境学習応援団「まちの先生見本市」登録資料	5
		合計	75

(3) 環境保全のための活動に従事する団体及び個人に対する助成(事業予算計350万円、実績331万円)

①「環境保全プロジェクト助成」(予算225万円)

今年度も引き続き公募助成を実施し、54件の応募がありました。12月19日開催の認定委員会において10件を選定し助成しました。

(単位:万円)

NO.	団体名	都道府県	プロジェクト名	実績
1	EM白井野菜の会	千葉県	白井市における小学校3年を主体に「白井市役所・環境課・教育委員会」・「白井市福祉作業所・みのり」をパートナーとする環境学習活動実践プロジェクト	18.1
2	特定非営利活動法人 こんぶくろ池自然の森	千葉県	「市民で育てる100年の森」 こんぶくろ池自然博物館園化	20.0
3	公益財団法人 大阪自然環境保全協会	大阪府	未来を担う子供たちへの環境学習支援プロジェクト	17.7
4	NPO法人 府中かんきょう市民の会	東京都	第15回レンゲまつり記念プロジェクト	18.5
5	NPO法人 あゆみの森共同保育園	福岡県	豊かな自然の中でのびのび保育	20.0
6	いたばし水と緑の会	東京都	赤塚トンボ池の再生	20.0
7	高砂海浜公園海辺の保全集いの会	兵庫県	高砂海浜公園海辺の「アオサ」回収&堆肥化プロジェクト	20.0
8	海辺工房ひとで	静岡県	もっと、知ろう!海の生き物	20.0
9	玉縄城址まちづくり会議	神奈川県	鎌倉・玉縄城を偲ぶコースの里山復活と活用プロジェクト	20.0
10	絵本の家「ゆきぼうし」	新潟県	「フーのきの森」の整備保全、および森の体験活動	20.0
助成金合計				194.3

(4) 環境保全に係わる学術研究に対する助成（事業予算計480万円、実績412万円）

①学術研究助成（予算170万円）

16件の応募があり、7月25日開催の選考委員会において5件を選定し助成しました。過去からの累計では67名に助成し、うち41名が博士号取得に至りました。

(単位:万円)

申請者	所属大学院名	研究テーマ	推薦者	実績
1 本山 友衣	日本大学大学院 文学研究科 心理学専攻 羽生環境心理学研究室	自然および都市環境に関する環境心理学的研究	日本大学 文理学部 心理学科 教授 羽生 和紀	30
2 早川 有香	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 価値システム専攻 蟹江憲史研究室	持続可能な開発目標におけるステークホルダー間のトランスディシプリナリーな知的協働に関する研究	東京工業大学大学院 社会理工学研究科 価値システム専攻 准教授 蟹江 憲史	30
3 高木 悠太郎	早稲田大学大学院 法学研究科後期博士課程 環境法専修 大塚直研究室	米国の放射性物質に係る規制とNEPA	早稲田大学 法学部 教授 大塚 直	30
4 池田 まりこ	京都大学大学院 地球環境学舎 地球環境学専攻 地球益経済論分野	セネガル共和国における気候変動適応プロジェクトの現状と課題	京都大学大学院 地球環境学舎 准教授 森 昌寿	30
5 竹内 亮	京都大学大学院 経済学研究科 エコロジー経済学専攻 植田和弘研究室	里地里山をモデルとした持続可能な地域発展についての研究	京都大学大学院 経済学研究科 教授 植田 和弘	30
助成金合計				150

②環境問題研究会（予算125万円）

適応問題への関心がますます高まる中、平成23年度から取り組んできた「気候変動への『適応』～主として自然災害リスクへの対応～」の研究成果を広めるべく、以下の会合等にて専務理事より情報発信を行いました。

- ・ 国連グローバルコンパクト「日中韓ラウンドテーブル」（平成26年8月）
- ・ エコプロダクツ展「環境・社会報告書シンポジウム」（平成26年12月）
- ・ 「低炭素杯シンポジウム」（平成27年2月）

また、国際的にも気候変動に対するレジリエンス向上への関心が高まっていることから、さらなる情報発信に活用するために、昨年出版した書籍「気候変動リスクとどう向き合うか～企業・行政・市民の賢い適応～」の抜粋版英訳を行いました。

(5) その他の事業

①国連・ESDに関するユネスコ世界会議への参加および情報発信

平成26年11月に名古屋で開催された、「国連持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」の最終年としての会議に参加し、当財団における人材育成事業の取組を国内外に発信しました。

ユネスコ世界会議の公式サイドイベント、テーマ会議等に専務理事・事務局長が出席し、議論に参加するとともに情報発信に努めました。また、人材育成に関わる企業財団として、経団連自然保護協議会とも連携のうえ「企業によるESD宣言」の作成をリードし、日本からの情報発信としました。さらに「CSOラーニング制度」の取組みについて、ユネスコで取りまとめたグローバル・アクション・プログラム（GAP）への登録や、世界会議で配布されたジャパンレポートへの掲載を通じて「持続可能な開発のための教育」の普及に努めました。

②「第3回いきものにぎわい企業活動コンテスト」への協力

生物多様性保全推進のための顕彰制度（主催：いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会）への協力を行いました。今回はESDユネスコ世界会議にあわせ、平成26年11月に名古屋で開催されました。コンテストのうち市民活動を対象とした顕彰「いきものにぎわい市民活動大賞」に協力団体として参加し、損保ジャパン日本興亜環境財団賞として「特定非営利活動法人藤前干潟を守る会」を表彰しました。

③「低炭素杯2015」への協力

次世代に向けた低炭素社会を構築するための、全国各地から選ばれた取り組みを共有し顕彰する「低炭素杯2015」（主催：低炭素杯実行委員会）への協力を行いました。事務局長が企画審査委員として参加し、本年度は「損保ジャパン日本興亜環境財団賞」を新設、同賞として茨城県の常磐大学を表彰しました。また、気候変動への適応をテーマとした特別シンポジウムでは、専務理事がパネリストとして登壇しました。

(6) その他の特記事項

①内閣府への届出

平成26年6月25日 平成25年度の事業報告等の提出をしました。

平成26年7月11日 評議員に関する変更の届出を行いました。

平成26年9月 8日 定款変更（法人の名称）の届出を行いました。

②財団名の変更

上記①に記載のとおり法人の名称を変更し、平成26年9月1日付にて公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団となり、変更に伴う全ての手続きを完了しました。

2. 庶務の概要（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（1）役員に関する事項

役員等の氏名は次の通りです。（常勤者に「常勤」表示） *平成27年3月31日現在（50音順）

役職	氏名	備考
理事長	佐藤 正敏	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 相談役
専務理事	関 正雄	（常勤）損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR部 上席顧問
理事	伊東 俊太郎	東京大学名誉教授
理事	岡島 成行	公益社団法人日本環境教育フォーラム 副会長
理事	小島 麗逸	大東文化大学 名誉教授
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長
理事	森寫 昭夫	名古屋大学名誉教授
監事	斎藤 昭一	公認会計士
監事	新里 智弘	公認会計士
評議員	埴 昌樹	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 取締役常務執行役員
評議員	大河原 良雄	公益財団法人世界平和研究所 常勤顧問
評議員	大塚 義治	日本赤十字社 副社長
評議員	加藤 三郎	環境文明研究所 所長
評議員	小林 料	前 東京電力株式会社 顧問
評議員	嶋田 行輝	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR部長
評議員	杉崎 重光	ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長
評議員	鳥居 泰彦	慶応義塾学事顧問
評議員	中野 良子	公益財団法人オイスカ 会長
評議員	三橋 規宏	千葉商科大学名誉教授
評議員	安田 喜憲	国際日本文化研究センター 教授
評議員	吉川 弘之	独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長
評議員	涌井 洋治	日本たばこ産業株式会社 顧問
認定委員	阿部 治	立教大学 教授
認定委員	市川 博也	国際教養大学 教授
認定委員	原 剛	早稲田大学環境塾 塾長、元早稲田大学大学院 教授
認定委員	関 正雄	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR部上席顧問
選考委員	角 秀洋	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社社長
選考委員	植田 和弘	京都大学大学院 教授
選考委員	大塚 直	早稲田大学 教授
専攻委員	関 正雄	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR部上席顧問

（2）職員等に関する事項

平成27年3月31日現在の従業員は次の通りです。

区分	就業年月日	備考
事務局長	平成23年10月1日	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
職員	平成19年7月1日	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
スタッフ	平成18年9月4日	損保ジャパン日本興亜キャリアビューロー(株)より派遣

(3) 役員会等に関する事項

①理事会の開催

開催日	会議事項	結果
平成26年6月2日 第1回通常理事会	第1号議案：平成25年度事業報告及び 決算承認の件 第2号議案：定時評議員会開催の件 第3号議案：選考委員選任の件 報告事項：理事長・専務理事の職務 執行状況の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承
平成26年6月20日 第1回臨時理事会	第1号議案：理事長選定の件 第2号議案：専務理事選定の件 第3号議案：役員報酬の件 第4号議案：財団の名称変更並びに諸 規定等の改定の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決
平成27年3月10日 第2回通常理事会	第1号議案：平成27年度事業計画およ び収支予算の件 第2号議案：認定委員・選考委員選任 の件 報告事項：平成25年度年度事業経過 報告、理事長・専務理事 の職務執行状況の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承

②評議員会の開催

開催日	会議事項	結果
平成26年6月20日 定時評議員会	第1号議案：平成25年度決算承認の件 第2号議案：評議員選任の件 第3号議案：任期満了に伴う理事選任 の件 第4号議案：任期満了に伴う理事選任 の件 第5号議案：財団の名称変更及びそれ に伴う定款党の変更の件 報告事項：平成25年度事業報告の件、 平成26年の事業計画およ び収支予算等の件	全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員一致で承認可決 全員了承

(4) 許可、認可および承認に関する事項

該当はありません。

(5) 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	金額
財団の運用財産として	損保ジャパン日本興亜(株)	50,000,000 円
財団の運用財産として	ちきゅう倶楽部社会貢献ファ ンド(損保ジャパン日本興亜)	5,000,000 円
財団の運用財産として	法人	1,800,000 円
財団の運用財産として	個人	1,812,000 円

(6) 主務官庁指示に関する事項

該当はありません。

(7) その他の重要事項

該当はありません。

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。